

学習指導の工夫及び施設・教材、指導状況に関する調査 2

小学校の家庭科では、実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに、日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、家族の一員として生活しようとする実践的な態度を育てることを目指している。そのために、家庭生活についての基礎的な理解と日常生活に必要な技能の確実な定着を図り、実生活の中での活用能力を身に付けさせることが大切である。

そこで、学習指導要領の趣旨に沿った学習指導を進めるうえでの教師の指導法の工夫や、家庭科室の状況、教材の整備状況等について毎年全国規模で調査を行っており、山口県もこの調査に参加している。この度、県内の実態を把握するため、全国調査と同一内容で県内各地区の小学校から90校（90名）を抽出して実施した。

- 調査時期 平成19年7月
- 調査内容 学習指導上の工夫とその取り扱い、家庭科室の状況と教材の整備等家庭科の指導状況
- 調査人数 県内各地区の小学校から90校（90名）

<実態調査の結果と今後の取組み>

調査結果は、全国調査とほぼ同じ傾向にあったが、更に詳しくみると、山口県では次のような傾向にあることがわかった。

- ① 家庭科学習の指導において、「学校外の人材を活用した指導」、「T T指導」、「パソコンの活用」などの割合が、全国調査よりも特に低い。
- ② 「発表・表示用教材」の整備状況が、全国調査に比べて低い。
- ③ 卒業までの指導内容では、5学年において、「住まい方への関心」には時間をかけているが、「衣服や食事への関心」、「家庭生活の工夫」の学習時間は、全国的な平均時数よりも少ない。

これらの課題を改善するためには、次のような手だてが必要であると考えている。

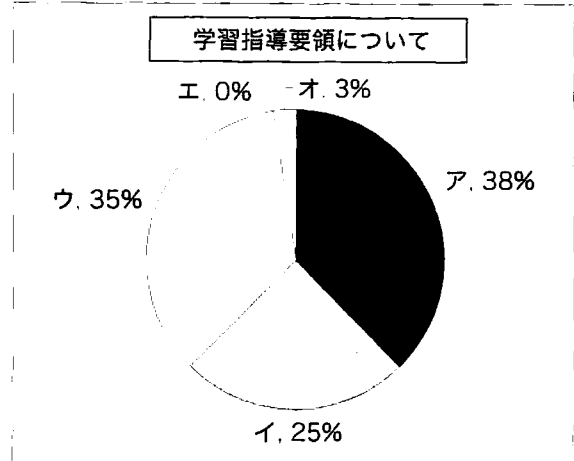
- ・ 新学習指導要領の実施に向けて、改訂の内容、中学校との系統性などを研修する。
- ・ 学習ボランティアの活用やT T指導、パソコンを活用した学習などを積極的に取り入れて、指導法の工夫・改善を図る。
- ・ 教師用教具として、基本縫いの標本、食品等模型や授業用掛図類、特にDVDやパソコンソフトなど多様な発表・表示用教材を充実させ、指導の効果の充実を図る。
- ・ 基礎的な知識・技能を習得させ、実生活に生かし役立てる喜びを味わわせる指導の充実を図る。

I 学習指導上の工夫とその取り扱いに関する調査

設問1 現学習指導要領についてお答えください。

(1) あなたは、家庭科の現学習指導要領に目を通したことがありますか

- ア 何度も目を通している
- イ 1度全文に目を通した
- ウ 1度部分的に目を通した
- エ 目を通したことはないが、別の資料を読んだ
- オ 指導要領も別の資料も読んだことがない



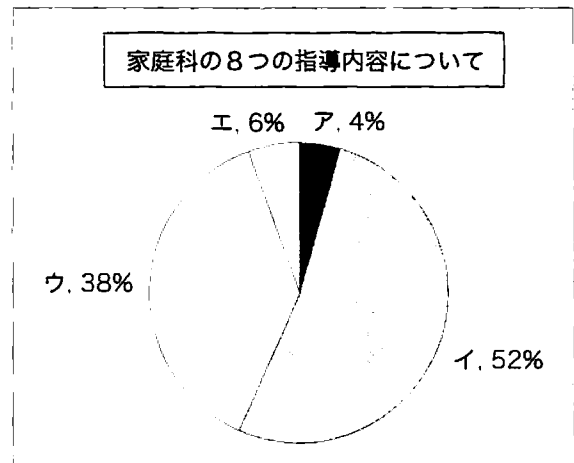
【考察】

○ 家庭科の学習指導要領に目を通したかについては、個人差が大きい。このことは、普段の教師の研修に対する姿勢が十分に関係しているが、継続して家庭科を担当する機会がなかった教師がいることにも関係しているであろう。

個人の努力とともに、研修会でも取りあげて、定着を図ることが必要である。

(2) 現学習指導要領の8つの指導内容について、理解していますか。

- ア 十分理解している
- イ 理解している
- ウ やや不十分
- エ 不十分

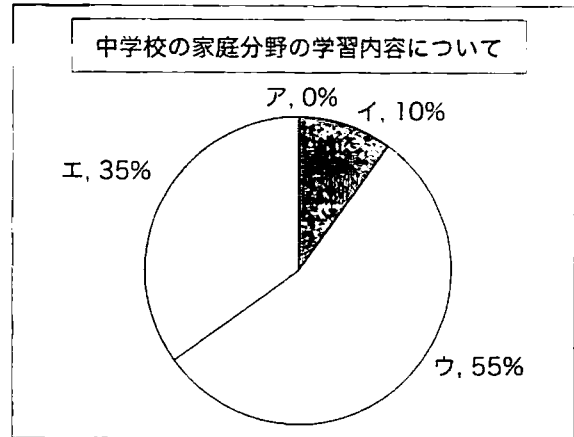


【考察】

○ 学習指導要領の8つの指導内容については半数が理解不十分、または理解していないという結果になっている。これは、内容が8項目にも及び、混乱しやすいことも原因の一つではないだろうか。設問1(1)と同様に、多くの研修会で取り上げたり確認したりするなどの工夫が必要である。

(3) 中学校での技術・家庭科分野でどのような学習をするかの内容を知っていますか。

- ア よく知っている
- イ だいたい知っている
- ウ 一部知っている
- エ 知らない



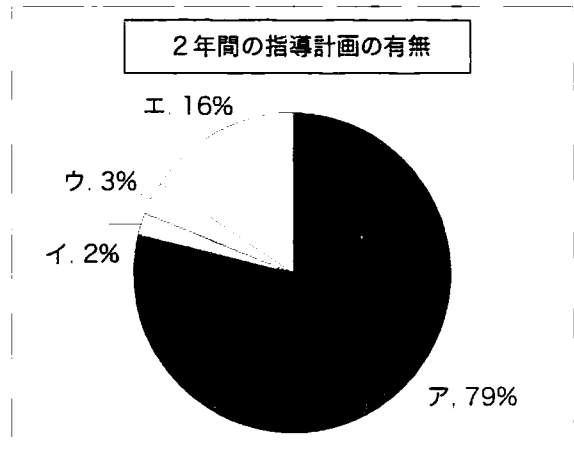
【考察】

○ 中学校での技術・家庭科の学習内容について、「知っている」、「だいたい知っている」という教員は10%である。小・中の連携を深め、互いの内容を知っておくと、小から中への接続や継続の見通しができ、基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力を基盤にした生活を創意工夫する能力の定着がより確かになるであろう。

設問2 あなたの学校の家庭科年間指導計画についてお答えください。

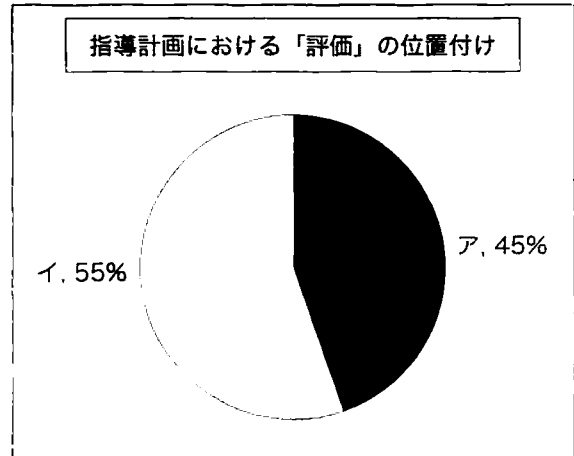
(1) 2年間を見通した指導計画がありますか。

- ア すべての題材でしている
- イ ほとんどの題材でしている
- ウ 一部の題材でしている
- エ 組み合わせたり関連を図ったりしていない



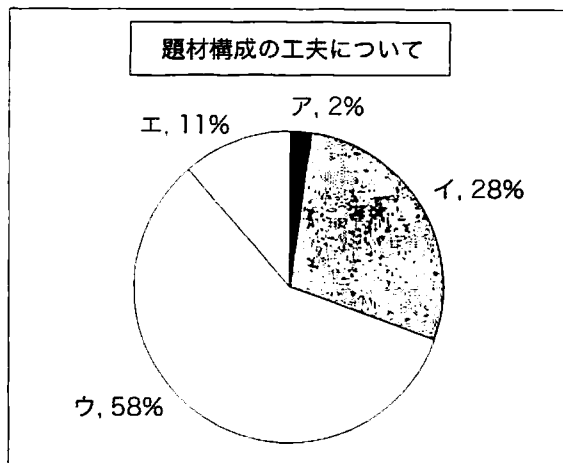
(2) (1)で「ある」と答えた人にたずねます。指導計画に「評価」を位置付けていますか。

- ア 位置付けている
- イ 位置付けていない



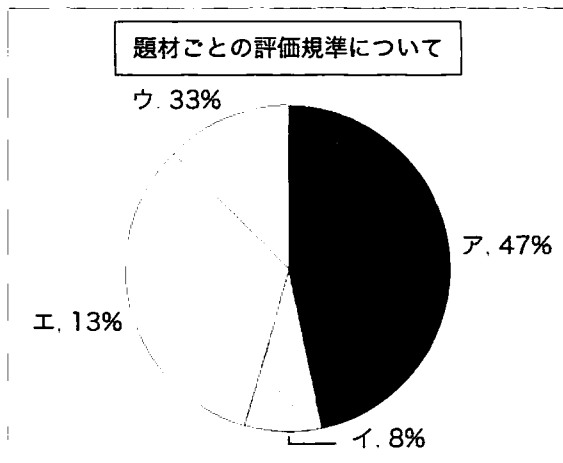
(3) 8つの内容を組み合わせたり関連を図ったりした題材構成をしていますか。

- ア すべての題材でしている
- イ ほとんどの題材でしている
- ウ 一部の題材でしている
- エ 組み合わせたり関連を図ったりしていない



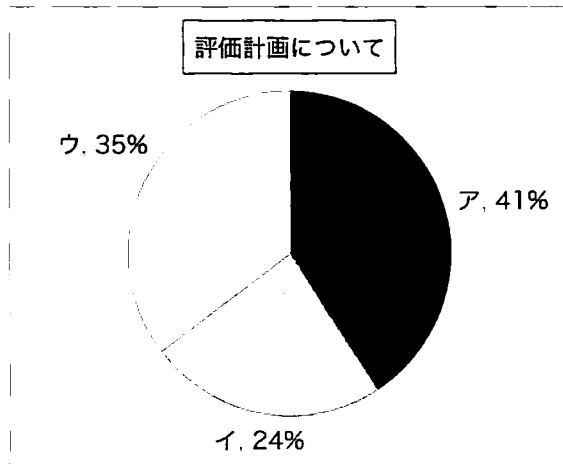
(4) 題材ごとの評価規準を作成してありますか。

- ア 作成してある
- イ 作成中
- ウ 検討中
- エ 作成予定はない



(5) 評価計画（評価の場面・評価の観点・評価方法）を立てて学習指導をしていますか。

- ア 評価計画を立てている
- イ 評価計画を作成中
- ウ 評価計画がない

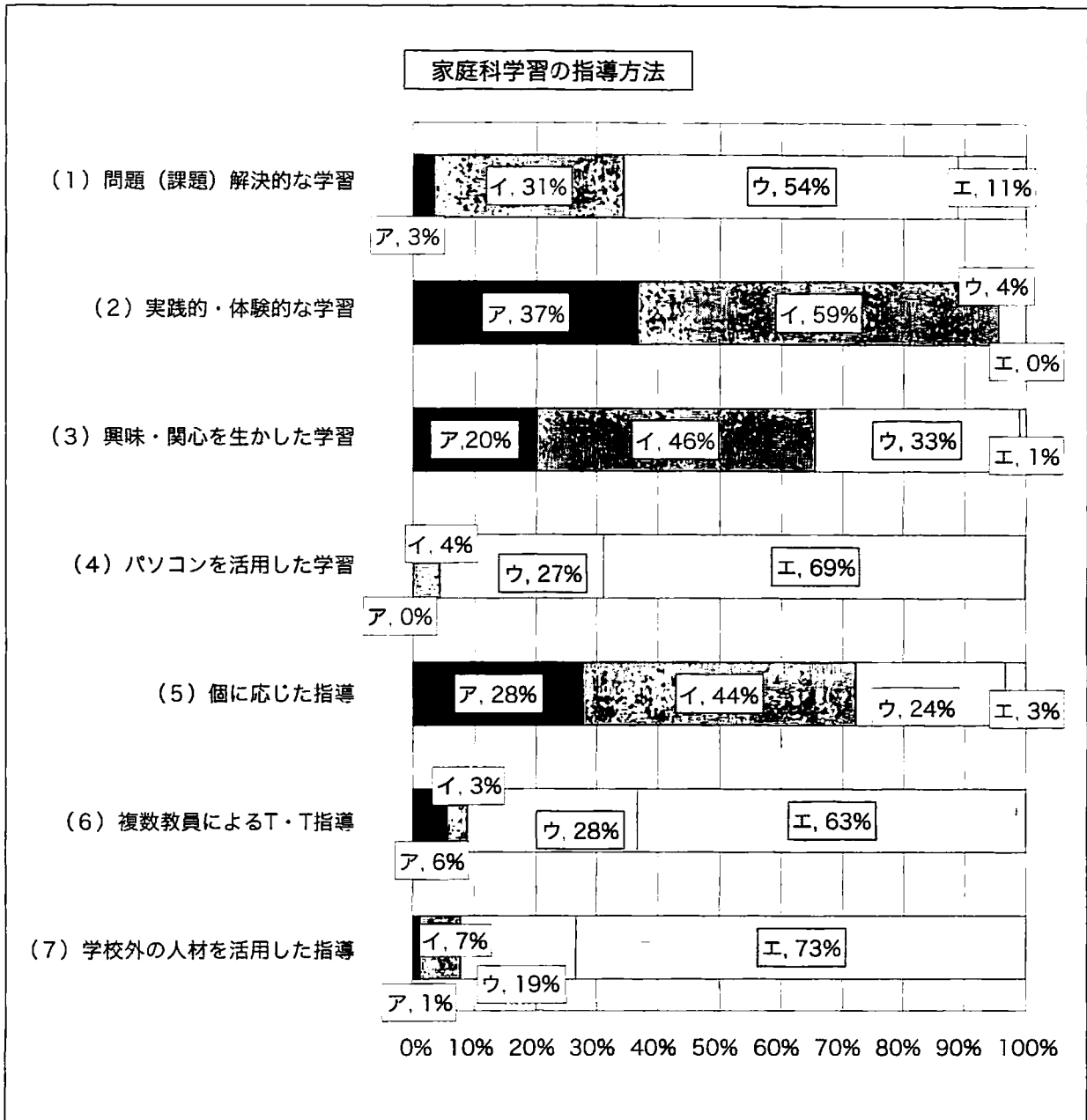


【考察】

○ 年間指導計画についてはほとんどの学校が作成している。しかし、評価を位置付けている学校は半分以下である。また、評価規準も作成してある学校は半数であることから評価規準を作成し、計画的に評価していくことが今後の課題である。

8つの内容については、9割近くの学校で関連させた指導ができています。

設問3 家庭科学習の中で、次のような指導をどの程度行っていますか。



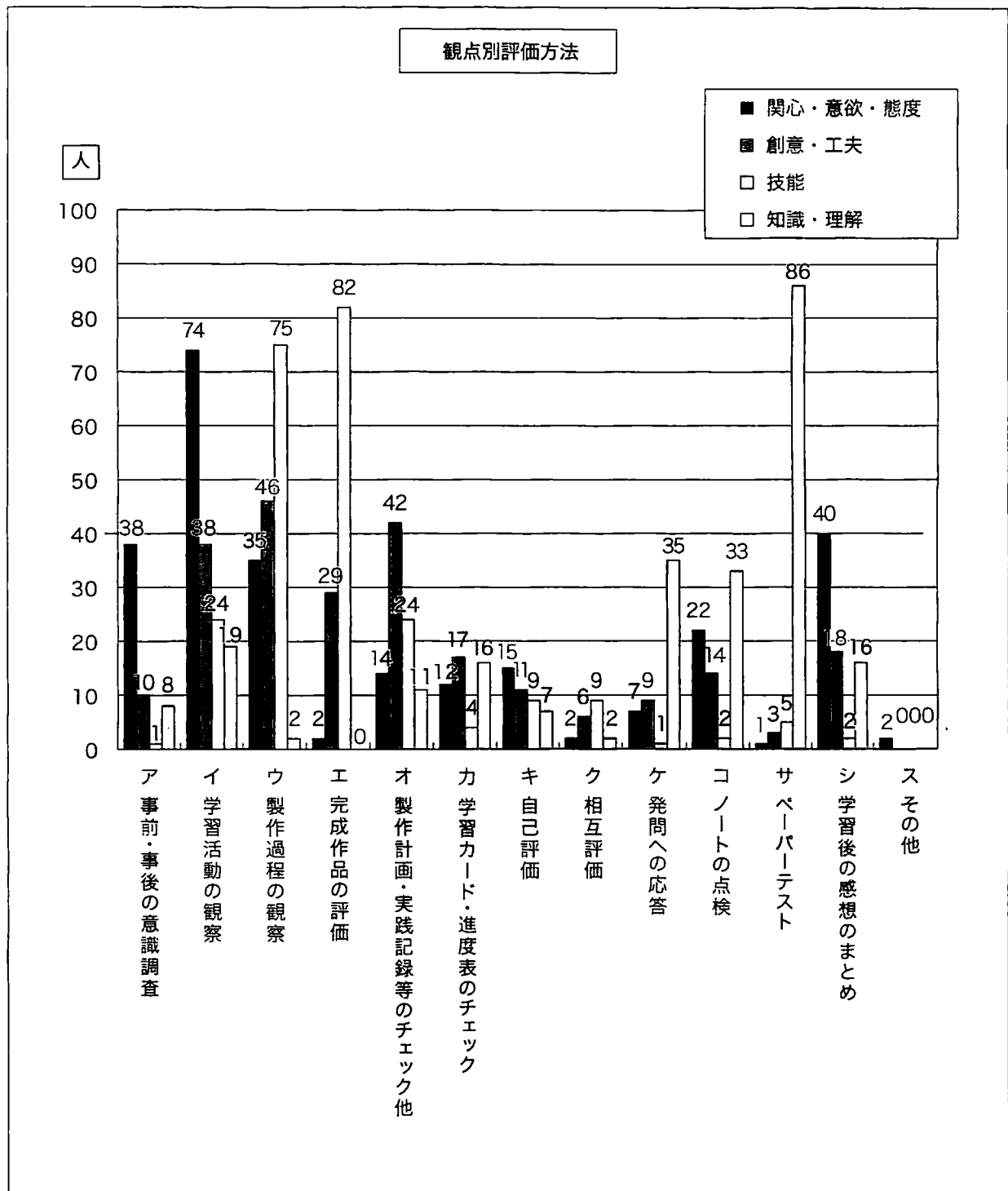
ア よく行う イ わりで行う ウ 時々行う エ 少ない

【考察】

○ 家庭科学習の指導では、「実践的・体験的な指導」が最も多く行われている。そして、それが子どもにとっての家庭科の授業の楽しさにつながっていると考えられる。次に多いのは「個に応じた指導」で、個人差の大きい実技では一人一人にあった指導が行われていることが分かる。そして「興味・関心を生かした学習」へと続く。

少なかったのが「パソコンを活用した学習」であるが、これはソフトの有無など、PC環境が影響していると考えられる。「学校外の人材」や「T・T指導」も少ないが、家庭科の実技指導では、複数の指導者の支援があると、学習の効果が上がることが期待できる。T・Tによる指導をはじめ、保護者や地域の人に呼びかけて、学校ボランティアとして参加してもらう機会を増やすことで、学習効果を高めていきたい。

設問4 家庭科指導では、どのような方法で評価していますか。「評価の観点」別に実施した評価方法を下の口の中から選んで、記号を記入してください。（観点3つ以内）



【考察】

○ 家庭科の評価については、「関心・意欲・態度」は活動の様子を観察や学習後のまとめによって行うことが多い。「生活を創造する能力」では、活動の観察の他、製作計画や完成作品などでも評価をしている。「生活の技能」も多くは活動の観察、完成作品による評価が多い。「知識・理解」については、やはり、ペーパーテストでの評価が多い。

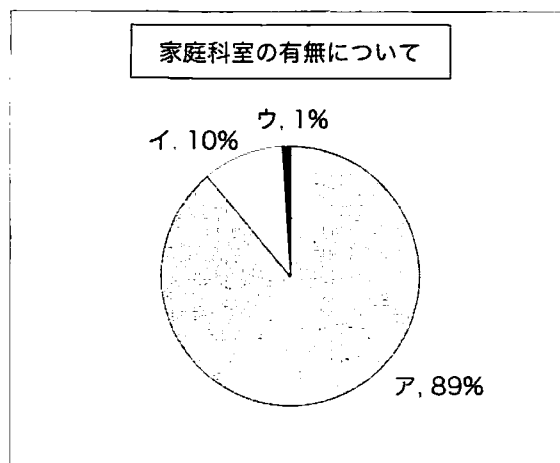
児童の自己評価や相互評価が少ないので、計画的に取り入れることで、より学習に対する主体性が養われる可能性が高くなると考えられる。

II 家庭科室の状況と教材の整備等に関する調査

設問1 家庭科室についてお答えください。

(1) あなたの勤務校には、家庭科室がありますか。

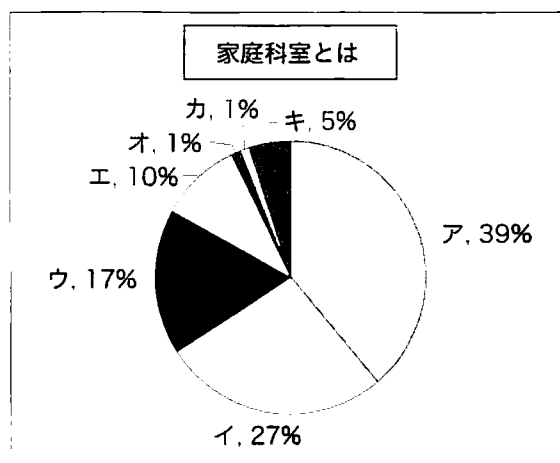
- ア 家庭科専用の教室がある
 イ 家庭科と他教科との共用教室がある
 ウ ない



(2) (1)で「ア」と答えた方はお答えください。

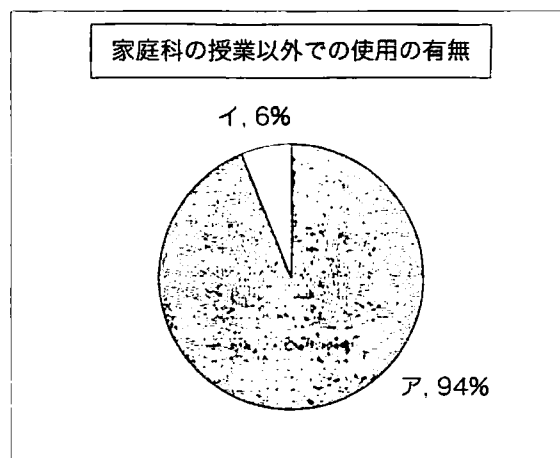
① 学校の家庭科室は、どのような教室ですか。

- ア 被服室と調理室を兼ねた1教室と準備室
 イ 被服室と調理室を兼ねた1教室
 ウ 被服室と調理室の2教室
 エ 被服室と調理室の2教室と準備室
 オ 被服室と調理室の2教室と関連教室
 (準備室の他にミシン室、会食室など)
 カ 余裕教室を家庭科室に転用
 キ その他

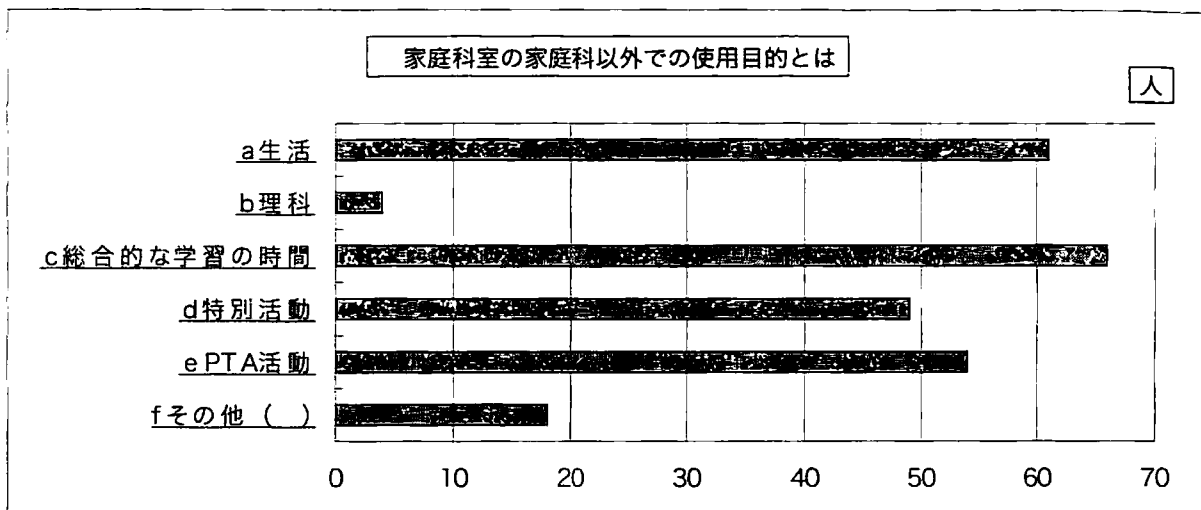


② 家庭科の授業以外で使用することがありますか。

- ア ある イ ない



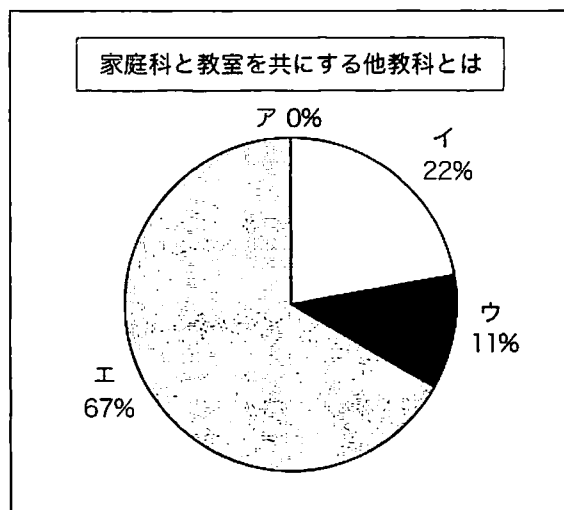
③ ②で「ある」と答えた人におたずねします。どのような時に使用しますか。



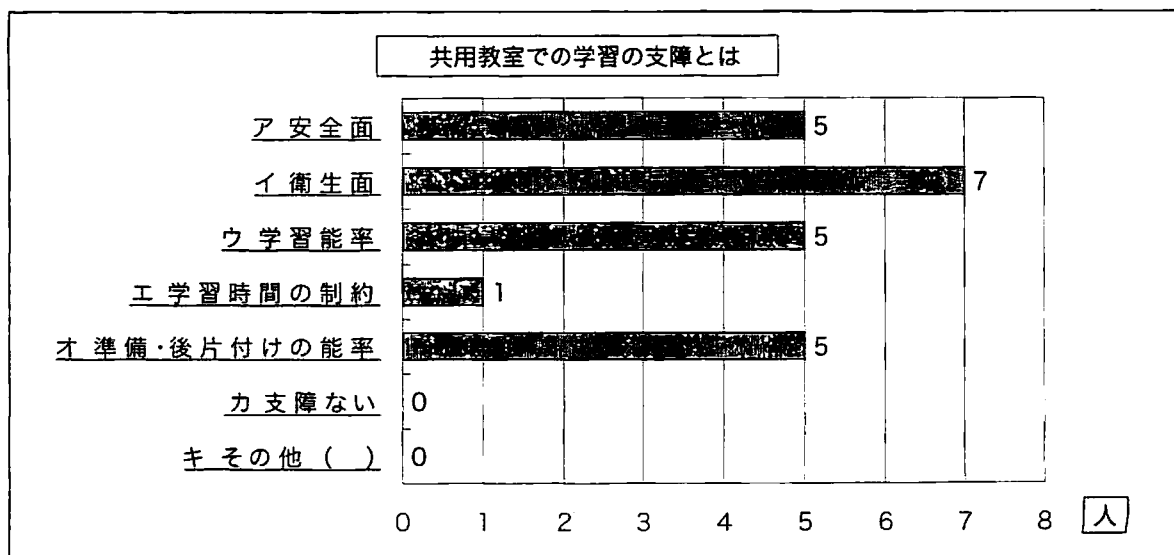
(3) (1)で「イ」と答えた方はお答えください。

① 「他教科」とは、何の教科ですか。

- ア 生活
- イ 理科
- ウ 総合的な学習の時間
- エ その他



② 共用教室で学習の支障になることはどんなことですか。(支障がある場合は3つ以内)



【考察】

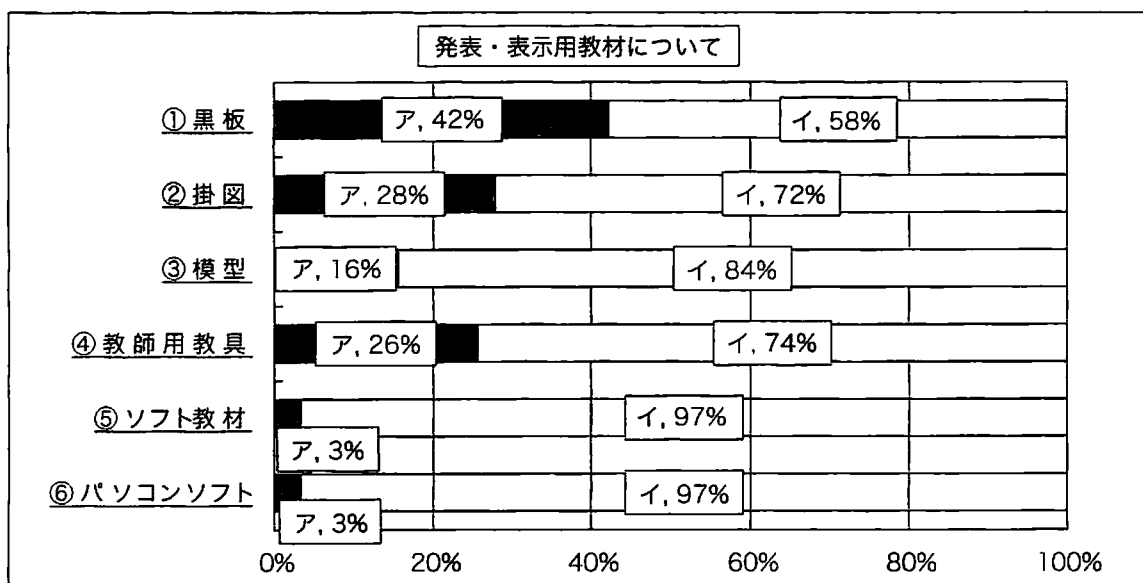
○ 家庭科室は、基本的に各学校に設置されている。そして、家庭科の授業以外でも多く利用されている。生活科をはじめ、総合的な学習の時間、特別活動の時間などで使用されている。家庭科の授業以外で使われるのは、おそらく、授業で料理をしたり、何らかの物作りをしたりする際であろう。身近な存在として機能しているのが分かるが、ここで気を付けなければならないのは、「安全面」と「衛生面」である。被服室と調理室を兼ねた家庭科室がほとんどなので、他教科での使用の際にも、家庭科室の正しい利用の仕方や、後片付けの仕方などを徹底する必要があるだろう。

設問2 現小学校学習指導要領の下、家庭科指導を進める際の教材整備の状況についてお答えください。

(1) 発表・表示用教材について

- ①栄養、献立表などの黒板の類は十分ですか。
- ②教授用掛図などの掛図の類は十分ですか。
- ③基礎縫い、布地などの標本や食品、献立などの模型などは十分ですか。
- ④裁縫用具一式、栄養指導用具一式など教師用教具は十分ですか。
- ⑤DVD、スライド、ビデオテープなどのソフト教材は十分ですか。
- ⑥家庭科指導用のパソコンソフトは十分ですか。

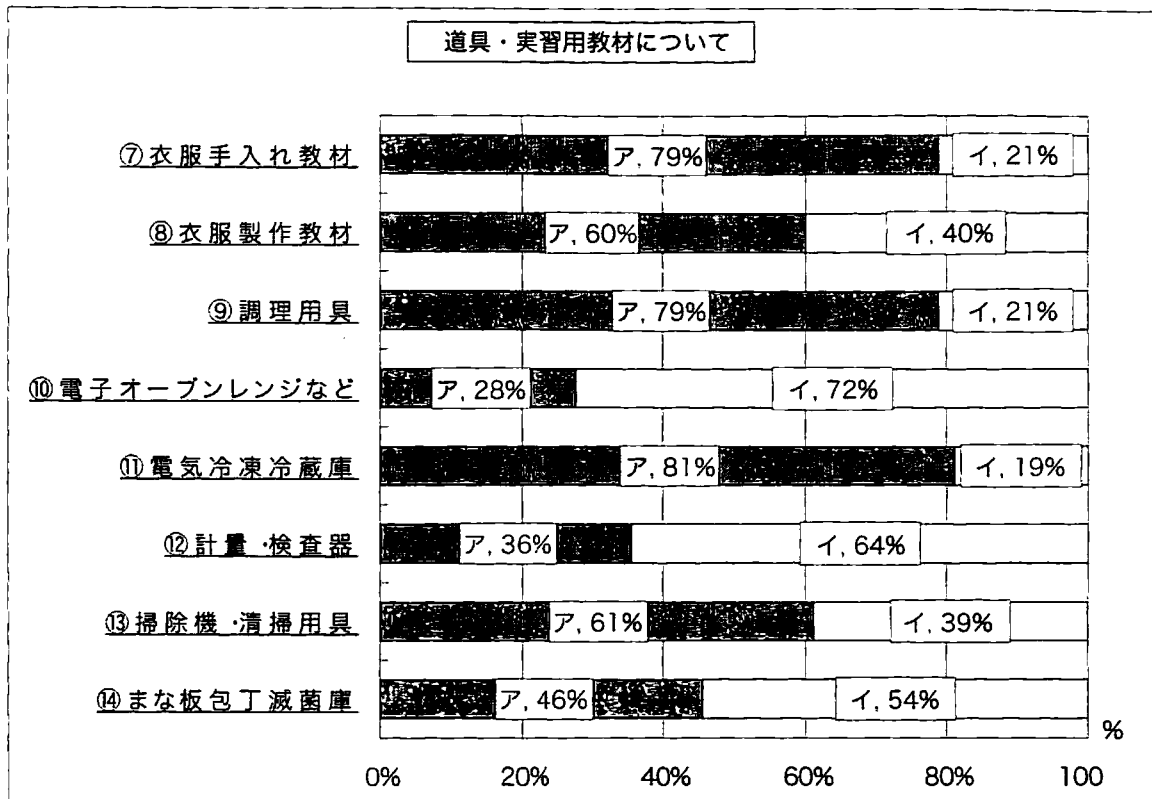
ア はい
イ いいえ



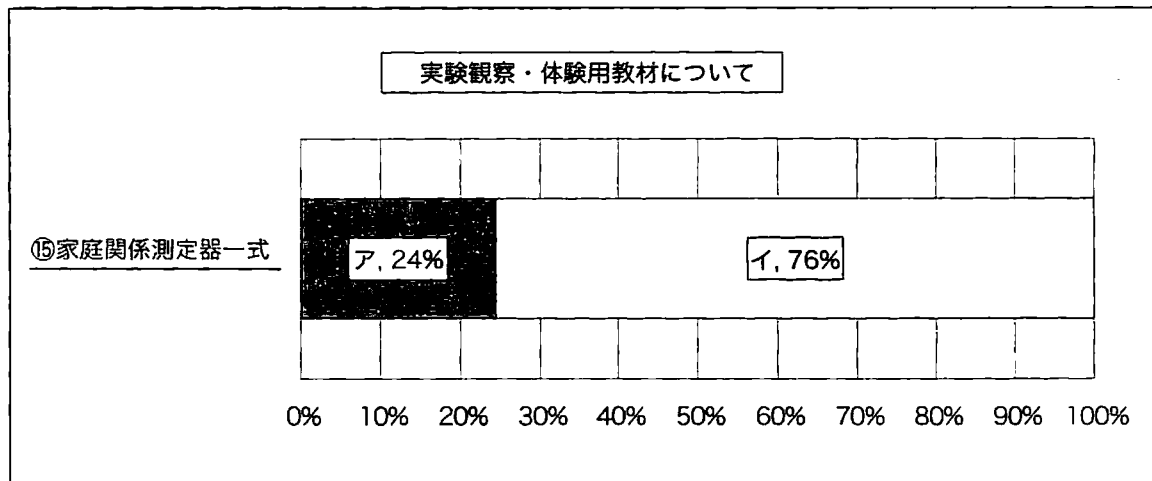
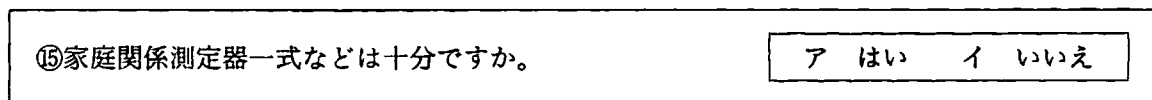
(2) 道具・実習用教材について

- ⑦アイロン、アイロン台、噴霧器、洗たく機一式など衣服手入れ教材は十分ですか。
- ⑧ミシン及び付属品、裁縫板、裁縫用具一式、大鏡などの衣服製作教材は十分ですか。
- ⑨コンロ、炊事用具一式、鍋類一式、容器一式、食器一式など調理用具は十分ですか。
- ⑩電子オーブンレンジ、ホットプレート、エアタオルなどは十分ですか。
- ⑪電気冷凍冷蔵庫は十分ですか。
- ⑫上皿自動秤、計器類、食品成分検査用具などの計量・検査器などは十分ですか。
- ⑬掃除機、清掃用具は十分ですか。
- ⑭まな板包丁滅菌庫は十分ですか。

ア はい イ いいえ



(3) 実験観察・体験用教材について



【考察】

○ 教材の整備については、教材の種類によってばらつきがある。8割近くが十分とされているのが、アイロンなどの衣服手入れ教材、コンロをはじめとする調理器具、電気冷蔵庫である。5割以上が十分とされているのが、ミシンをはじめ衣服製作教材、清掃用具である。まな板包丁滅菌器は5割以下で、衛生上問題がある。また、一応数がそろってはいるが、多くの教材の整備が十分とは言えない状況にある。

子どもに使用させなければ学習が成り立たない物については整備されているが、指導の効果を上げることのできる教材についてはかなり不十分な状態であると言える。

Ⅲ 家庭科の指導状況に関する調査

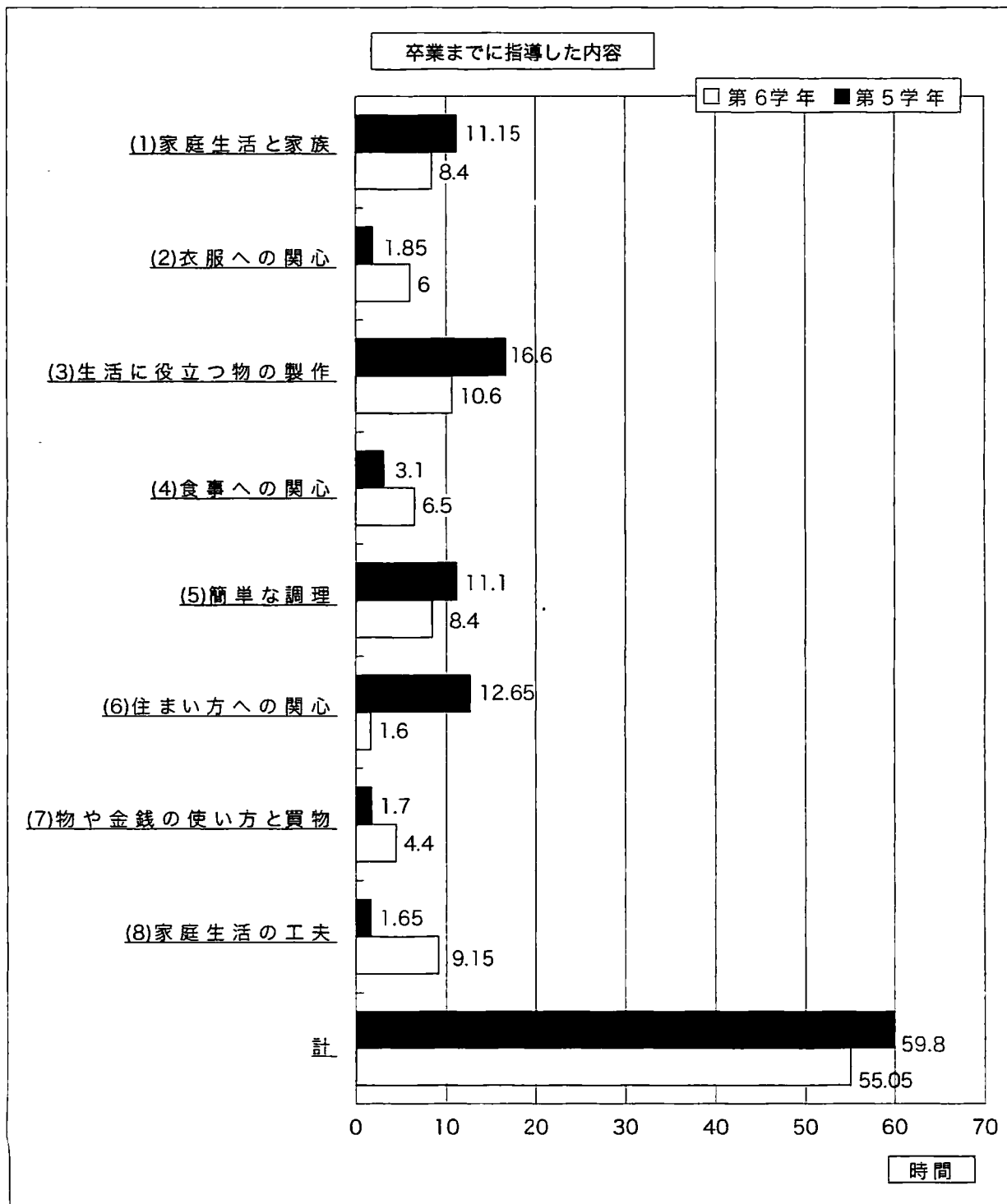
設問1 昨年度の第6学年が第5学年時から卒業までに指導した内容について、記入してください。

その際以下の点にご配慮願います。

※下表の指導内容(1)~(8)は、学習指導要領に示された下記の指導内容を表しています。

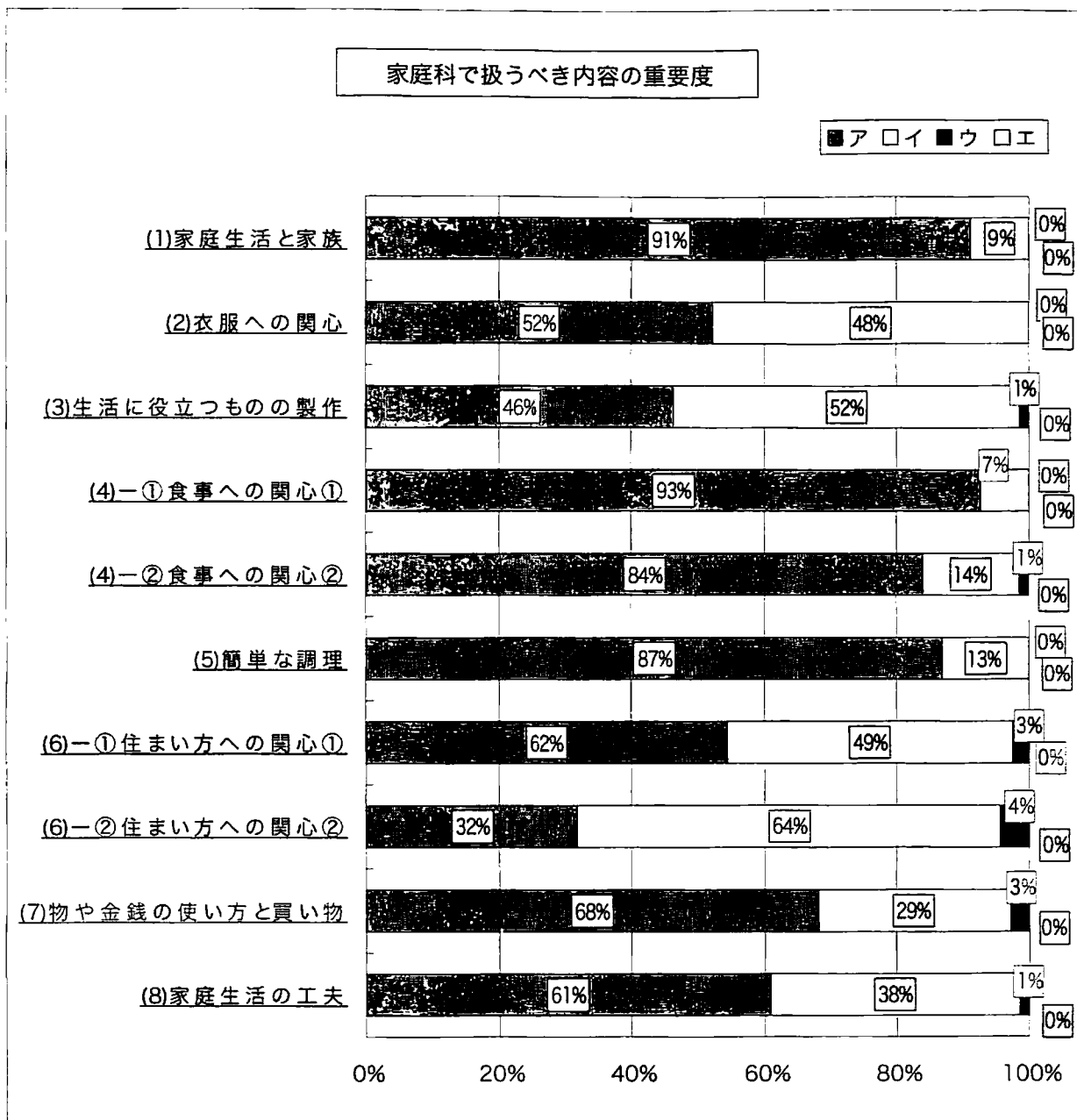
指導内容ごとに、履修した学年別に指導時間数を記入してください。

複数内容を複合させて指導している場合も、それぞれの指導内容に分けて時間を記入してください。学年により履修させていない指導内容は、空欄としてください。



設問2 以下の(1)から(8)は学習指導要領に示された内容です。小学校家庭科で扱うべき内容としてどの程度重要だと考えますか。あなたの考えに一番近いものを下記から一つ選んで、その記号を□に記入してください。

また、(1)から(8)以外で学習させたい内容があれば(9)の枠内に書いてください。



ア 重要だと思う
 ウ どちらかといえば重要だとは思わない
 イ どちらかといえば重要だと思う
 エ 重要だとは思わない

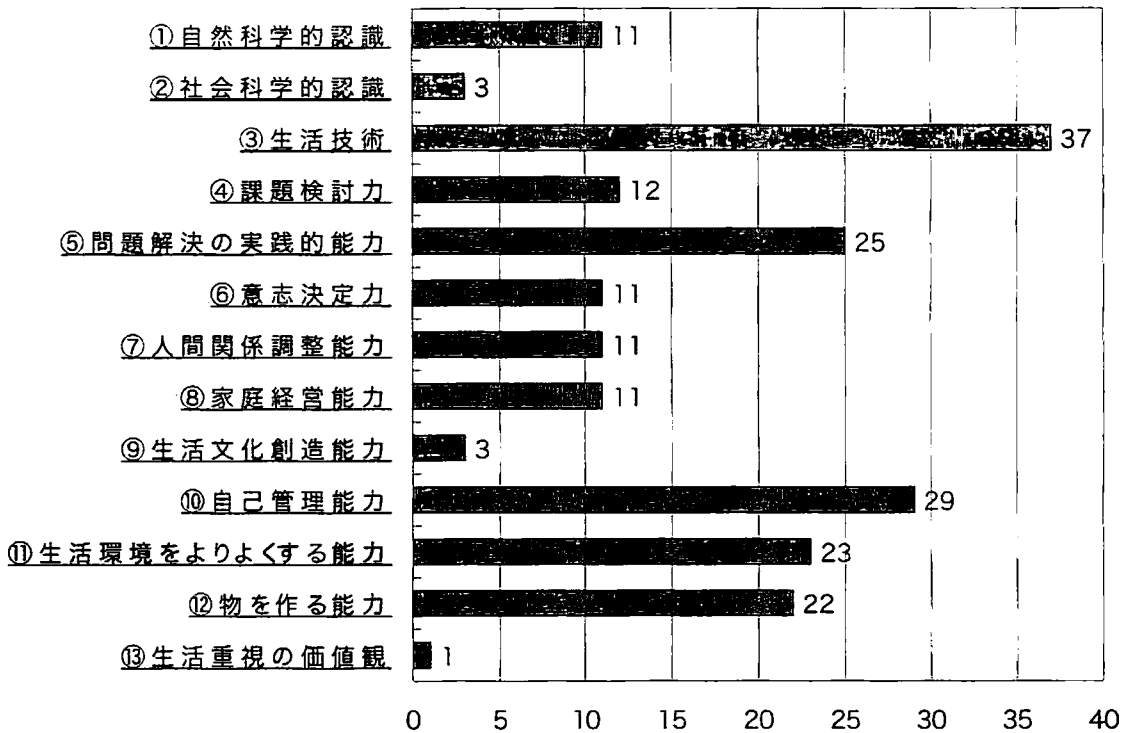
【考察】
 ○ 家庭科で実際に指導した内容と家庭科で重要だと思う内容の間に差があることが分かった。例えば、(1)家庭生活と家族(4)食事への関心(7)物や金銭の使い方と買い物では実際の指導頻度と重要だと感じる程度に差がある。重要だと感じているのに、実際の指導頻度は少ない。少ない授業時間でも内容を充実させていく必要がある。

設問3 小学校の家庭科でめざす資質・能力の内、どれが重要だと考えますか。

特に重要だと思うものを5つ選び、□に○を記入しなさい。

- | | |
|--------------------------------------|-------------------|
| ①生活に関する自然科学的認識（生活を科学的にとらえる力） | |
| ②生活に関する社会科学的認識（生活を歴史や社会現象をふまえてとらえる力） | |
| ③自立できる衣・食・住に関する生活技術 | |
| ④多面的に生活の課題を検討する力 | ⑤生活問題解決の実践的能力 |
| ⑥生活に関する意志決定能力 | ⑦人間関係を調整する能力 |
| ⑧家庭を経営できる能力 | ⑨生活文化を創造する能力 |
| ⑩生活を自己管理できる能力 | ⑪生活環境をよりよいものにする能力 |
| ⑫手を動かして生活に必要な物を作る能力 | ⑬生活重視の価値観 |

家庭科で目指す資質・能力の重要度



人

【考察】

○ 小学校で重要と思われるのは「衣食住に関する生活技術」「生活の自己管理能力」「生活問題解決、実践的能力」などの、自分でできることは自分で、という自立するための資質・能力である。

生活に便利な物が取り入れられている一方、技術を身に付けて使う機会や問題を自分で解決する場は少なくなっているのではないだろうか。しかし、自立して生きていくためには、よりよく生きるための問題解決的な能力や、基本的な生活技術の習得など、家庭科学習の果たす役割は大きいと言える。